



写真・陸前高田市 仮設住宅モビリア集会場でのカラオケ交流会の様子



02 | 団体の、活動ノウハウを公開する
-03 | **活動なう** [第1回]

…NPO法人 陸前たがだ八起プロジェクト
理事／蒲生 哲さん



04 | 団体の、活動パワーを紹介する
おらほのちから [第1回]

…一関市千厩町第10区自治会
会長／伊藤 清一さん 他



05 | NPO・ボランティアで、頑張る人
情熱人! [第1回]

…農産物生産加工グループ「ミル・みる会」
会長／中道 ハルエさん

06 | **助成金・
セミナー情報**

07 | **お知らせ**

…NPO活動交流センター
岩手県社会福祉協議会 ボランティア・
市民活動センター

08 | **県からのお知らせ・
知事からのメッセージ**

2012
vol.2

2012年12月発行

団体の、活動ノウハウを公開する

活動 なう

[第1回]



▲蒲生さん(左から3人目)と
スタッフの皆さん

蒲生 哲さんのプロフィール

昭和38年生まれ。陸前高田市広田町出身。震災以前はモビリアキャンプ場の支配人をしていた。現在はそのキャンプ場を拠点にして特定非営利活動法人「陸前たがだ八起プロジェクト」理事・事務局長として復興支援に力を注いでいる。

被災者の“思い”に寄り添う 「NPO法人 陸前たがだ八起プロジェクト」

理事・蒲生 哲さん



組織はこうして立ち上がった

私は、14年間このオートキャンプ場モビリアの支配人をしており、昨年3月11日の東日本大震災のあり、市内が一望出来る施設内の展望台で、午後3時から夕方6時まで茫然と立ち尽くした。目の前で街が消え、目の前の7万本の松が一気に消え、目の前で2千人が亡くなる姿を見てしまった。ここは高台になっていたためか、皆さん上へ、上へと避難してきて、気がついたら300人ほど集まっていた。ここは避難所ではなかったが、この人達を何とかしなくてはいけないと思い、独断でここに避難所を開設した。



▲NPO法人設立を記念して行われた大だるま絵かき

陸前たがだ八起プロジェクトの支援

6月下旬頃、避難してきた人達がこの避難所から仮設住宅(168世帯380人)に移ったので一段落したんだなと思っていた。ところが、中越防災安全推進機構から、「蒲生さんこれからだよ。」と言われ、その時は意味が分からなかった。仮設住宅に入居して皆さんそれぞれプライバシーは守られるけれども、この人達はいずれ本設に移る。その人達が仮設住宅において、どのように過ごしたかが今後重要になる。悶々と過ごすのか、「やりがいい」や「生きがいがいい」を見つけて、ステップアップして本設に移るかで全然違うということだった。そこで、我々はNPO法人を立ち上げ、仮設住宅支援や自治会をサポートすることとした。実際、自治会長はすごい苦労をしており、例えば、物資を頂くのは有難いが、自治会員全員分まとめて置いていかれるので、自治会長が一人で分配している状況だった。そこには、不平や不満が当然出て来ってしまう。また、仮設住宅には救済物資を支援し易いため、仮設住宅への支援が主になってしまったことから、在宅避難者と仮設住宅生活者との間で、食料分配などで溝が出来てしまっていた。どちらも被災者に変わりはないが、仮設の人達から見ると、在宅避難者は家があるから良いじゃないかとなくなってしまう。被災後間もない頃は、家がある人達は、炊き出しなどをして、仮設の人達を助けた頑強な繋がりがあったが、仮設暮らしになってからは、そのコミュニティが崩れつつあるのは残念だ。私達は、3、11以来コミュニティに助けられてきたのだと強く思っている。

地域の住民を主体にして

全国、全世界から支援の手が差し伸べ

今後へ向けての抱負

最初、私達はこのにいる人達の「生きがい」作りや「やりがいい」作りに向けてやって行こうとこのNPOを立ち上げたが、1年経って、先のことが見える人はいいが、見えない人もいる。今ある支援はこれで良いのか悪いのか、何のためか誰のためか、じっと静かにしていた人もいるし、イベントの開催も含めこちらから色々提案して、皆さんを巻き込んで、自分の力で働いてお金を稼ぎ、そのお金でご飯を食べたり遊びにも行く、そういった普通の生活に早く戻りたい。

私の目の前で、2千人もの尊い命が理不尽にも奪われたが、起こってしまったことはしょうがない。それよりも、亡くなった仏様達のためにも震災前よりも良い街にしなければならぬし、私達の子供や孫が、陸前高田から巣立ったとき、「あの悲惨な陸前高田から来たの、大変だったね。」と慰められるよりも、「あの状態から立ち直った陸前高田から来たの、すごいね。」って言われるように、子供達や孫達が誇りを持てるような街を創ることが、残された者の役目だろうと思っている。

避難所について

当初は、避難所のコミュニティはしっかりしていた。多くは地元の小友地区やその周辺の人達であり、コミュニティがまとまっており、どの避難所に比べても避難している人々の間には衝突がなかったと思う。なお、このキャンプ場にはマット、シュラフ、ランタン、水等があり、他の避難所よりも恵まれていたことは幸いだった。

仮設住宅の建設地として キャンプ場を利用した経緯

陸前高田市では、被災地域が大きい過ぎたため、仮設住宅を建てる場所がほとんど無い。一番被害を被ったのは学校のグラウンドであった。やむを得ないことだが、子供達が運動できないという2次の



▲モビリア仮設住民と新潟県山古志村へ視察

られた訳だが、三陸沿岸の被災地にとっては自分達で何とか出来るレベルではない。今は有難く支援を受けているが、永遠に支援を頂ける訳でもなく、いずれは残った地元の人間が立ち上がり、自らやっていたいかなければならない。そう言った意味でも、地元の人間が立ち上がった意義は大きいのではないか。

仮設住宅者のイベントについて

一番盛り上がるのは、おばあちゃん達による踊り。今まで寝てたと思ったら、目を爛々とさせて元気に立ち上がり、「高田音頭」であったり、子供達も参加して色々な踊りを楽しそうに踊っている。その他、老若男女が一緒になって、四季折々の行事をしている。与えるだけの能動的イベントよりも、自発的なイベントを私達は目指している。自分達で何か、やりがいや生きがいを見つけてやるのは大事なことで。例えば縫物サークル、お菓子作り、そば作り等、あくまでも自分達でやりたいことを見つけて機会を作って頂きたい。

現在抱えている課題

NPOという言葉すら知らない中で、私達の存在や活動を皆さんに知ってもらうのには一苦勞した。中でも、「カネ」や「ヒト」を集めることが大変だった。95%助成金で運営しているし、資金が無いと人を集めることも出来ないの、そこが辛いところである。

生業の収入確保の活動について

日中、若い人は仮設住宅には居ないが、仕事をしているかどうかは分からない。なぜなら仕事はここには無いから。職安にも求人案件は出ているが、結局期限付きとか、社会保険を完備してないとか、職安の方も苦労している。私自身も生業が無い。やはり、生業についてはかなり厳しいのが現状である。

特定非営利活動法人 陸前たがだ八起プロジェクト

住所：〒029-2207
岩手県陸前高田市小友町
字瀬沢 155-78
モビリア仮設住宅内
TEL：0192-56-4111
FAX：0192-56-4111
E-Mail:rt8kpj@gmail.com



●伊藤清一さん（左から2番目）と一関市千厩町第10区自治会 鉦泉部「たまご湯」の皆さん

おらほの
ちから
第1回

鉦泉が 地域おこしの 起爆剤に。

一関市千厩町第10区自治会
会長・伊藤清一さん他、鉦泉
部「たまご湯」部長・海田茂
さん、同副部長・遠藤孝志さ
ん、同会計・菅原彰さん



●鉦泉が湧き出る岩窟

伊藤 清一 さん

プロフィール

伊藤建築設計事務所を営んでおり、「たまご湯」の建物の移築・改装に携わられる。平成22年より、一関市千厩町第10区自治会会長に就任。

○たまご湯のルーツについて

先代達からの言い伝えによると、このたまご湯は海田茂さんの曾祖父海田嘉平さんが、明治33年に草地を水田にしようと開墾したところ、一つの岩窟から水が湧き出るようになった。この水は、以前からたまご水と言われており、飲んだときにくで卵を食べたようなにおいや味がしたという。水は1分間に15ℓ程湧き出ている。たまたま茨城県からタバコ耕作指導に訪れていた鈴木直治郎さんが、この水を沸かして入浴すれば、万病に効果があると伝えた。そのことを畑の沢地区の人々に教え、その教えにより湯屋組合が設置され5年間程湯屋が営まれた。

○きっかけは、「孫の言葉」から

たまご水を沸かして入浴すると、湯冷めはしないし肌はツルツルになることから、昔からこの地区では、お正月やお盆、土用の丑の日、お祝い事のある日など、1年に1回は入浴していた。孫が小学校に入学する際、たまご水を沸かして入浴したところ、風呂場に温泉のにおいが充満しており、孫が「温泉だ。」とすっかり喜んで入浴していた。その笑顔を見て、「鉦泉が地域興しの起爆剤になるのでは。」と思ったのがきっかけだ。

○活動の内容について

特に、自分達はお金を掛けて宣伝はしていないが、テレビやら新聞など、多くの広報機関の皆さんの方から私達の取材に來ている。他地域のイベントに出張して、「たまご湯」を「足湯」として無償で提供したことも広報になった。また、最初はトラックで地元の各家庭の風呂場まで、たまご水の宅配を無償で行った。そのうち口コミで反響が大きくなり、遠くは気仙沼市など他市町村からも問い合わせが多くなった。だんだんと配達が忙

しくなってきたため、湯場を造り、地元の人を利用してもらうという当初の目標どおり、平成16年2月29日に、「たまご湯」を設立した。

○住民主体の活動

平成12年頃、自治会で会合を開いて、何とか自治会で「たまご湯」を運営しようとしたが、資金の問題があった。秋田、福島、気仙沼等の沸かし湯の温泉の研修にも行った。とにかく資金が無かったから、地元住民がボランティアで、14年頃に荒れた桑畑を整地し、「たまご湯」の建物は譲り受けた物を移築し、15年から16年にかけて完成させた。皆で一致団結して、集会所に加えて、住民同士が裸の付き合いが出来場所を作りたいという強い思いが原動力となった。平常働いてもらっている人は1日2人の当番制で、老人クラブや60代位の方々に応援してもらっている。最初は二の足を踏む方もいたが、今では、自宅に居るよりもお客さんと触れ合うことで、色々な話題を持ち寄り、沢山の方と話をすることでコミュニケーションも取れるため、「やりがい」「生きがい」を感じ、皆さん喜んで働いてもらっている。



●畑の沢鉦泉「たまご湯」

○たまご湯のふれあいについて

開設当初は、利用客は1日に5〜6人しか来なかったが、今では他市町村及び県外からも含め1日30人前後來ている。利用客は主に60代以上となっているが、口コミやマスコミ、インターネットでの

●子供から大人まで 好まれるポン菓子

ポン菓子は、みなさん大好きで、ここでも売上が良い。また、ポン菓子は、ふるさと食品コンクールでも表彰されている。作り方は、米に雑穀類を入れた物をポン菓子製造機に入れてから、蜂蜜や砂糖を入れ、熱いうちに型に詰めて整形。余熱があるうちに切り分けたお菓子で、甘さ控えめで食感も良く、子供から年配の方まで好まれている。砂糖味、醤油味、カレー味、エゴマ味の4種類出している。1番売れているのはエゴマ味で、香りがとても良い。



大人気のポン菓子

●会員のやりがい

会員には高齢者が多くなってきたり、ほとんどの会員が年金をもらっている。年金プラス、この売り上げがボーナス代わりになるから、皆さんそれが楽しみで働いている。ほとんどが農家だから、毎月の売上で現金が入ることが励みにもなるし、お姑さんとお嫁さんが一緒に働いている、仲の良い家族もある。また、孫への小遣いにもなるし、毎日の生活の張り合いにもなっている。韓国出身のお嫁さんが作っている、手作りのキムチの漬物も評判が良い。

会員のほとんどは女性だが、男性も3人いて、行者にんにくや山菜類などを販売している。

●今までの活動の課題

やっぱり人間関係、コミュニケーションに一番気を使った。若い世代と年配の世代との世代間の問題よりも、品物の値段のつけ方。自分の持ってきた品物が売れば売れるだけ自分の利益につながるから、後から品物を持って来た人が、先に持って来ている品物の値段を見て、それより安い値段をつける。同じような商品なら後から値段を付けた安い方が売れるし、それでは先に持って来た人に悪い。これでは駄目だということで、役員会で何回も相談して、どうやって公平に値段を設定するかを決めるのが難しかった。

●これからの活動における抱負

会員の皆さんの高齢化が進んできているから、若い世代の新たな会員を増やすことと、売上がプラスになるのが一番良いんだけど、何とか現状を維持してやって行きたい。体には充分に気を付けて、雑穀の里として軽米町をずっと盛り上げて行って、後世にも「雑穀の里」として残していくためにみんな頑張っていきたい。



●「たまご湯」祭り

広がりもあってか、県外から若い方も沢山利用しに來ている。1度来た若い方々など、次回以降はお菓子を持参したり、お茶を飲み遊びに來たり、リピーターとして來ている。

○今までの活動に対する課題と これからの活動における抱負

現在の課題は、建物の老朽化である。特に風呂場の改装を考えており、何とか資金を集めたいと思っているが、補助金や寄付金等を含めた資金の調達に関してはなかなか難しいのが現状だ。「たまご湯」の運営により、管理に携わっている高齢者の方々は生き生きしており、地元住民も地域に誇りを持つようになった。これからの維持・管理については、今までみんなで頑張ってきたこの「たまご湯」を、地元の子供達にも積極的に関わってもらいながら、この先もすたれることなく更なる発展を目指し、自治会員みなで一致団結して頑張っていきたい。

●畑の沢鉦泉「たまご湯」

〒029-0802
岩手県一関市千厩町小梨字小林334-1
連絡先・電話0191-531-2618

NPO・ボランティア 情熱人! 第1回
で、頑張る人

“雑穀の里”を 支えたい一心です。

農産物生産加工グループ「ミル・みる会」
会長・中道 ハルエさん

町の特産品で、新鮮さと安全を提供する。
ログハウス風の外観と広い駐車場を持つ軽米町の産直施設
「ミル・みるハウス」は、観光バスも立ち寄る人気スポット。



中道ハルエさん(左)とレジ係の池端由紀子さん

●ミル・みる会を立ち上げた経緯

平成10年7月頃に、軽米町役場農林課の方から、「生産して余った野菜等売り物にしてはどうか。」とお話を頂き、何人かの農家に声を掛け賛同を得たのがきっかけだった。私は幸い野菜などを売ることが好きだったこともあり、「建物を無料で貸すからここで売ってみては。」と役場から言われたため、やってみることにした。最初は第3セクターの委託で、自分達はレジに立たず品物を提供するだけだったが、平成12年頃からは



軽米町特産の
雑穀類

軽米は雑穀の里であり、その雑穀を生かして軽米町のアピールをしていきたい。「雑穀と言えれば軽米」、「軽米と言えれば雑穀」と言われるように、1年中購入できるように常に雑穀を販売していきたい。そのうち、軽米と言えれば「ミル・みる会」と言われるようにもなりたい。私自身も、粟や稗、アマランサスや稲きびなどを栽培しているし、雑穀の売上は大きく、県内はもとより県外からも買い物客は多い。お客様から、「いつ来ても欲しい物が置いてある。」と云ってもらえるのが有難い。

会員には高齢者が多くなってきたり、ほとんどの会員が年金をもらっている。年金プラス、この売り上げがボーナス代わりになるから、皆さんそれが楽しみで働いている。ほとんどが農家だから、毎月の売上で現金が入ることが励みにもなるし、お姑さんとお嫁さんが一緒に働いている、仲の良い家族もある。また、孫への小遣いにもなるし、毎日の生活の張り合いにもなっている。韓国出身のお嫁さんが作っている、手作りのキムチの漬物も評判が良い。



農産物生産加工グループ「ミル・みる会」
住所：〒028-6221
岩手県九戸郡軽米町晴山 22-38-1
会長・中道ハルエ
TEL: 0195-47-1806 FAX: 0195-47-1806

▼助成金情報

1. 赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」助成事業 第10次

http://www.akaihana.or.jp/er/p6.html

◆助成対象

被災地をはじめ全国で、東日本大震災で被災された方がたへの救援・支援活動を現に行うボランティアグループ、NPO法人、社会福祉法人、学校法人、公益法人等であって、次の要件にあてはまる非営利団体・救援、支援活動の実態があり第三者から活動の実態が裏付けられること。

- ・5名以上で構成されていること。
- ・助成を受けて行った事業について、中央共同募金会ホームページでの公表が可能なこと。

◆助成対象活動・プログラム

・東日本大震災で被災された方がたを支援するボランティア活動等全般。

・被災地における活動だけでなく、全国の被災者の避難先、原子力発電所事故に伴う住民の避難先における活動も対象とします。

・いずれも平成23年3月11日以降の活動について対象とします。

・助成対象プログラムは以下のとおりとします。活動内容に最も合うものを1つ選んでください。

《助成対象プログラムの内容分類》

- ①緊急救援活動への助成（緊急救援活動プログラム）
- ②生活支援活動への助成（生活支援活動プログラム）
- ③復興支援と新たなコミュニティづくりの活動への助成（復興支援・コミュニティ活動プログラム）

◆応募受付期間 第10次

平成24年2月10日～平成25年1月10日
詳しくは右記URLをご覧ください。

2. 一般財団法人 センパイレブン記念財団 2013年度公募助成

http://www.7midori.org/josei/index.html

◆公募助成、主旨、年間助成金額

NPO活動交流センターからのお知らせ

NPO活動交流センターでは、NPO団体を運営している方、NPOを立ち上げようと考えている方、NPOという活動自体に興味をお持ちの方を対象に、2つの学習の場を定期的に開催しております。また、学ぶという事だけでなく参加者同士のつながりづくりの場としても利用頂けるよう工夫しています。今回はそれぞれの講座の特徴について紹介します。

「NPO基礎講座」

NPO法人の設立、運営方法に関して学ぶ講座です。

これまでに、「NPOのあらまし」と題してNPOとはいったい何か、NPOという概念が現在に至る歴史について学ぶ講座や「NPOの基礎知識」と題して設立間もない団体、設立を真剣に考えている団体を対象にしたNPO法の仕組み、概要などについて学ぶ講座を行ってきました。また、講義のあとにも時間を設けて参加者からの個別課題についてお応えする個別相談会も行っています。

次回は、「ハラスメントのない職場づくり」というテーマの講座を予定しています。12月18日（火）13時30分よりアイーナ6階にて。

○地球温暖化対策助成

森林の保護・保全を通じたCO2吸収・固定活動を支援。

1 団体あたり上限150万円、総額4000万円

○活動助成

環境市民活動に必要な経費を支援
上限なし、総額5000万円

○自立事業助成

助成期間内に事務所費・人件費などの財政基盤を安定的に確保できる事業を構築し、自立した活動ができる環境NPOを目指す団体を支援。

1 団体あたり上限440万円

○広域連携促進助成

同一テーマのもと、複数の団体による広域なネットワークで、地域の環境市民活動の効果を高めるプロジェクトを支援。

1 プロジェクトチームあたり
上限200万円

○清掃助成

ゴミのない環境をつくる活動を支援。
1 団体あたり上限20万円、総額5000万円

○植花助成

花咲く街並みをつくる活動を支援。
1 団体あたり上限30万円、総額2700万円

◆応募期間

平成24年12月1日～平成25年1月31日（当日消印有効）
詳しくは上記URLをご覧ください。

3. 社団法人 全日本冠婚葬祭互助協会 第14回社会貢献基金助成

http://www.zengokyo.or.jp/social/promotion/01.html

◆助成の対象となる団体等

次の条件を満たす、非営利組織（財団法人、社団法人、社会福祉法人、NPO法人、その他任意団体、市民ボランティアグループも対象となります。）又は大学、研究機関（個人も可）で、今回募集する助成対象事業の趣旨に合致する事業を行おうとしている団体等。

- ① 定款に準ずる規約を有し、自ら経理し、監査することができる会計機能を有す

「駅前楽校」

当て字ですが「えきまえがっこう」と呼びます。NPOなど組織づくりについて、先輩NPO団体さんの事例を聴いたり、運営における様々なコツ、技術を学ぶ講座です。

これまでに、NPO法成立以前から非営利活動に取り組まれている団体さんの組織づくりの楽しさ、ご苦労、やりがいについて講演頂いたり、ストレスのたまりやすい「会議」の在り方についてどこに悪い会議の根本があるのかグループワークで考える勉強会など行ってきました。

先日11月25日には、「聞く技術」と題して26名の方が参加し、相手の話を聴き、更に聴きたいことを掘り下げるにはどうしたらよいか「インタビュゲーム」という手法を用いて皆さん交流を持ちながら学びました。

いずれの講座も定期的に開催しております。詳しくはNPO活動交流センターまでお問い合わせ下さい。また、このようなテーマの講座をやってほしいなどの要望についてもご意見をお待ちしています。



◆お問い合わせ先

NPO活動交流センター
盛岡市盛岡駅西通1-7-1
いわて県民情報交流センター（アイーナ）6階
TEL: 019-606-11760
URL: http://www.aiina.jp/npo/index.html

ること。

② 団体等の主たる事務所（又は準ずる所）を日本国内に有すること。

③ 団体等の意志を決定し、今回申請する活動を執行する体制が確立していること。

④ 団体の活動実績（今回申請する活動又は類似した活動）を3年以上有し、今回申請する活動のニーズが高く今後も継続性が期待できること。

⑤ 申請する事業に対し、他の民間団体等からの助成を除く、自己資金を保有すること。

◆助成の対象となる事業

1 研究助成事業 2 高齢者福祉事業
3 障害者福祉事業 4 児童福祉事業
5 環境・文化財保全事業
6 国際協力・交流事業

◆助成金額

助成金は、総額およそ10,000千円を目途とし助成を行います。（1件当たりの助成上限は2,000千円とします。但し、研究助成事業においては、1,000千円を上限とします。）

◆募集期間

平成24年10月1日～平成25年2月末日
詳しくは上記URLをご覧ください。

4. 大竹財団助成金

http://ohdake-foundation.org/index.php/grant

◆募集概要 優先助成分野

① 平和 ② 環境／資源エネルギー
③ 人口／社会保障 ④ 国際協力

◆募集形態 公募
◆助成上限額 50万円
◆選考方法 理事会による選考

◆助成対象 公益、社会問題の解決に取り組む事業をおこない、日本国内に事務所や連絡先をもつNPO、任意の市民団体、ボランティアグループ、個人

◆募集期間

通年。年間を通じて申請を受け付けています。詳細は右記URLをご覧ください。

岩手県社会福祉協議会 ボランティア・市民活動センター (岩手県災害ボランティアセンター) からのお知らせ

「ずっぱりボランティアいわて」 インターネットサイトをリニューアルしました！

岩手県社会福祉協議会 ボランティア・市民活動センターでは、岩手県内のボランティアに関する情報を紹介するためのサイト「ずっぱりボランティアいわて」を平成24年4月よりリニューアルしました。その名のとおり、ボランティアに関する情報がずっぱり（たくさん）！

ボランティア募集やイベントに関する情報、ボランティア・NPO団体等に関する活動助成金に関する情報など、随時更新しています。

また、ボランティアに興味があるけれど、何から始めたら良いだろう。"どんな種類があるのだろう"などの不安を少しでも解消できるよう、「ボランティアを始めるために」という項目ではボランティアの種類や心構えなどについて、詳しく掲載しています。その他、子ども向けボランティア紹介コーナー、岩手県内のボランティア団体の検索、子育て支援センター、サークルの検索コーナーなど、お住まいの地域で知りたい情報に合わせて活用していただくことができます。

▼セミナー情報

一般社団法人 SAVE TAKATA 「新しい公共支援事業」

http://newpubliccommons.jp

平成24年度新しい公共支援事業（NPO等寄附募集支援事業）として、次のセミナー等を開催します。詳細は右記URLをご覧ください。

1 認定NPO法人制度習得セミナー
① 内容 認定NPO法人制度を分かりやすく、演習を交えながら説明します。

2 講師 関口 宏聡氏（NPO法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会 常任理事）

3 会場及び日時 ① 北上会場／北上市市民交流プラザ 催事場1号室
平成25年1月10日（木）10時30分～14時30分

2 NPO寄附募集セミナー
① 内容 寄附募集のポイントやプレゼン手法について、演習を交えながら学びます。

2 講師 伊藤 浩子氏（NPO法人せんだい・みやぎNPOセンター事務局長）
藤原 航氏（仙台市市民活動サポートセンター副センター長）

3 会場及び日時 ① 認定NPO法人制度習得セミナーと同日同会場で開催。
・北上会場にて15時30分～18時30分

3 企業との交流会
① 内容 NPO寄附募集セミナー修了者が企業等に向けてプレゼンを行う実践の場です。

2 講師：企業向けチラシをご参照ください。
③ 会場及び日時 ① 盛岡会場／いわて県民情報交流センター アイーナ 会議室703
平成24年12月21日（金）18時～21時
② 北上会場／北上市文化交流センター さくらホール会議室1・2
平成25年1月23日（水）18時～21時

「岩手県災害ボランティアセンター」

明日へ進もう!! いわて」

震災から1年半が経過し、ボランティア活動従事者数が平成24年8月11日に4万人となりました。活動従事者数、各沿岸のボランティアセンターでの活動内容の詳細については、インターネットサイト「岩手県災害ボランティアセンター明日へ進もう!! いわて」をご覧ください。



◆お問い合わせ先

岩手県社会福祉協議会
ボランティア・市民活動センター
(岩手県災害ボランティアセンター)
TEL: 019-637-9711
FAX: 019-637-7592

*ボランティアに関する相談は、こちらまでお気軽にご相談ください。

ずっぱりボランティアいわて

URL: http://wate-volunteer.jp/

明日へ進もう!! いわて

URL: http://wate-volunteer.jp/

知事からの

メッセージ

岩手県知事
達増拓也

平成22年度にいわてNPOセンターの不正経理問題が発覚し、今年、元理事長及び元職員2名が逮捕されるという事態となりました。

健全な活動を行っているNPOの皆さんへの信頼を失墜させる出来事であり、誠に遺憾なことです。

今後、同じような過ちを繰り返さないために、県としてはNPO法の理念である「NPO法人の説明責任」と「市

民による監視機能」に基づく自浄作用が発揮されるような環境の整備に努めるとともに、必要に応じて法に基づく監督を行っています。

一方、今、被災地での復興活動や「新しい公共」の担い手として、NPOが地域で果たす役割はますます重要となっています。

県としては、これからもNPOが自立して持続的に活動していくことができるよう、会計専門家の派遣など運営基盤強化のための支援を行ってまいりますので、NPOの皆さんも、引き続き復興支援や地域の課題解決など自らのミッションの達成に向け、頑張ってくださいと思います。

参加
無料

NPOの新しい会計基準を学ぼう

岩手県新しい公共支援事業(NPO等運営支援事業)

NPO法人新会計基準
習得支援セミナー

新しいNPO法人会計基準を習得するためのセミナーです。

午後
1時~5時

開催日 場所

1月22日(火) 二戸地区合同庁舎

2月26日(火) 奥州地区合同庁舎分庁舎

労務・税務・会計
支援講習会

課題が多いNPO法人の労務・管理部門を強化するための講習会です。

午後
1時~5時

開催日 場所

12月18日(火) 大船渡地区合同庁舎

1月16日(水) 北上地区合同庁舎

1月29日(火) 奥州地区合同庁舎分庁舎

2月12日(火) 一関地区合同庁舎

2月19日(火) 盛岡市アイーナ

講師およびスタッフ

NPO法人会計基準の
専門家(税理士)が対応
セミナー、講習会
メイン講師/丹代税理士

●ご参加の際は、岩手県発行「特定非営利活動法人制度の手引き」をご持参願います。

個別相談

セミナー及び講習会終了後シニアパワーいわてのスタッフが対応

カリキュラム

セミナー	講習会
NPO新会計基準の概要	NPO会計と税務
新会計基準の詳細説明	労務管理の基礎
質疑および個別相談	総務の基礎・コンプライアンス
	質疑および個別相談

丹代税理士

丹代税理士

シニア
スタッフシニア
スタッフ照会
連絡先

特定非営利活動法人 シニアパワーいわて
〒020-0107 盛岡市松園二丁目8-2
TEL&FAX 019-626-0098 担当/中村(善)
E-mail: zensyo.n@gmail.com

いわてのNPO・
ボランティア活動情報誌 ばいん

Pin

「PIN(ばいん)」は、「Paper Iwate NPO」の頭文字から名付けた造語です。
岩手県内のNPOやボランティア団体の活動の情報を伝えます。

PIN(ばいん) インターネット版はこちらです。 <http://netpin.imkraft.com/>

配布先も
募集しています。